

ビンナガ インド洋

Albacore, *Thunnus alalunga*



管理・関係機関

インド洋まぐろ類委員会 (IOTC)

最近一年間の動き

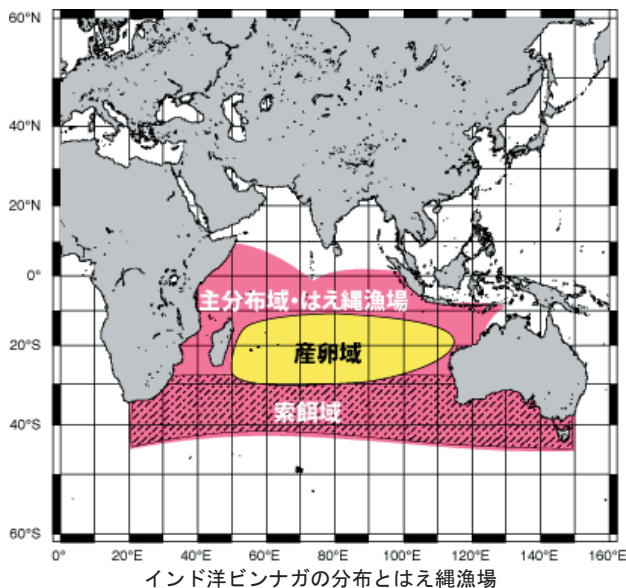
最大の漁業国である台湾はえ縄の漁獲量は、2006年(1.0万トン)から2007年(1.7万トン)と70%増加した。そのため、総漁獲量も2.5万トンから3.2万トンへ増加した。

生物学的特性

- 寿命：10歳以上
- 成熟開始年齢：5歳頃
- 産卵場：南緯10～25°
- 索餌場：南緯30～40°
- 食性：魚類・甲殻類・頭足類
- 捕食者：さめ類、海産哺乳類

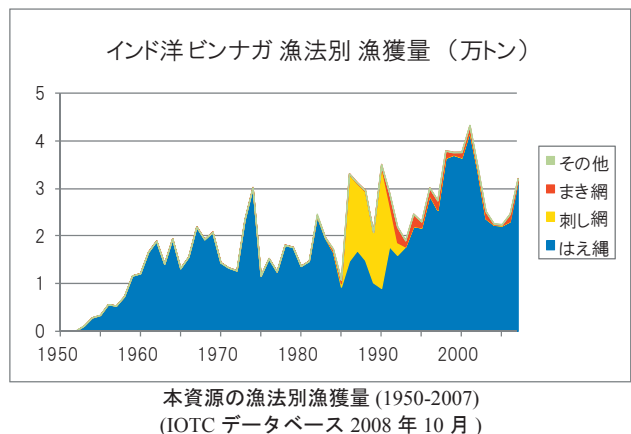
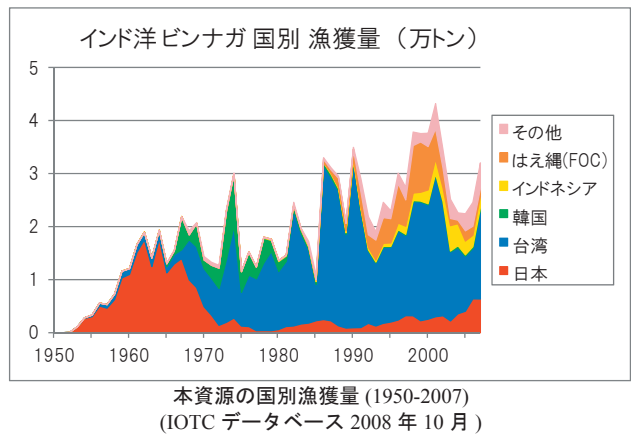
利用・用途

刺身や缶詰原料



漁業の特徴

本資源の漁業は、1950年代前半、日本のはえ縄船により開始された。その後、台湾・韓国のはえ縄漁業が、1954・1966年からそれぞれ参入した。また、1985～1992年の8年間、台湾は刺網漁業を行ったが、本水域の公海大規模刺網も国連決議により1992年末で停止した。本資源の漁業では、刺網漁業の行われた8年間と1950～1951年を除き、89～99%の漁獲量ははえ縄による。台湾はえ縄の漁獲量は1970年以來総漁獲量の5～9割を占める。



漁業資源の動向

はえ縄の漁獲量は操業開始以来緩やかに増加し、1958年までは1万トン以下、1997年までは1万～3万トンであった。1985～1992年の8年間は、台湾の流網漁業で2万トン近くが漁獲され総漁獲量は3万トンに達したが、流網を停止した翌年(1993年)には漁獲量は2万トン以下に減少した。その後、はえ縄の漁獲量が徐々に増加し、2001年には4万トンレベルに達したが、その後減少し2005年には2.3万トンになった。2006-2007年は増加し、それぞれ2.4万トン、3.2万トンになった。また、1984年からは西インド洋でまき網漁獲が始まり、最大3,300トンの漁獲があった。

管理方策

前記資源状況をもとに、2008年の第11回科学委員会では、漁獲量が今後このレベルで安定しビンナガの価格が他のまぐろ類より安ければ、特に緊急の資源管理措置の必要はない、と勧告した。

資源評価まとめ

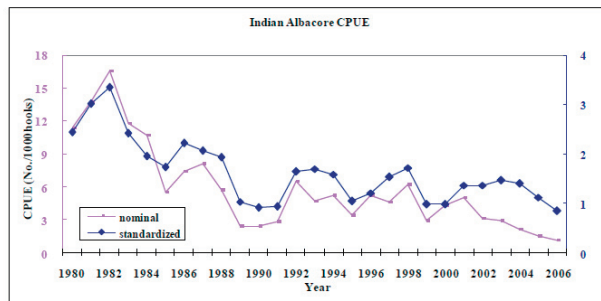
- 2.8万トン < MSY < 3.4万トン
- $1 < B(\text{MSY ratio})$
- $0.48 < F(\text{ratio}) < 0.91$

資源状態

2008年の第2回温帯まぐろ作業部会では、ビンナガの資源評価をASPMにより行った(2007年までのデータ使用)。その結果、 $2.8\text{万トン} < \text{MSY} < 3.4\text{万トン}$ 、 $1 < B(\text{MSY ratio})$ 、 $0.48 < F(\text{ratio}) < 0.91$ といった結果が得られた。2007年の漁獲量は3.2万トンまた最近5年間の平均漁獲量は2.6万トンである。このことより、本種の資源状況は、MSYレベルまでには至っておらず、漁獲圧もMSYレベルまでには至っていないと考えられる。

資源管理方策まとめ

- 特に緊急の資源管理措置の必要はない。
- 注意 (*) 2007年までの情報を用いた資源評価結果に基づく



台湾の標準化 CPUE とノミナル CPUE (1980-2007)

ビンナガ(インド洋)の資源の現況(要約表)

資源水準	中位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近5年間)	2.3～3.2万トン 平均: 2.6万トン
我が国の漁獲量 (最近5年間)	2,200～6,400トン 平均: 4,600トン